

3. 流れる水はどこへ行くの？ ② — 雨水ますへ ※1

川で行われた大きな工事

川につながるふだんの暮らし

川につながる農業

川につながる漁業や工業

付録



① グラウンドのはしを流れる。 ② 学校外に出ていく。



③ 道路のはしを流れる。 ④ あみのついた穴に流れこむ。この穴は雨水ますにつながる。

(2) 地下のパイプに流れこむ

雨水ますは地下でパイプとつながっています。

地上には道路や建物があるため、水をスムーズに流せないことがよくあります。そこで、地下にパイプを通して、雨水を早く流そうとしているのです。

地下を通るパイプはさらに太いものとつながり、その地域の雨水を集めて流します。

(→ 雨水のパイプが通るところ p 60)

注意!!…工事している場所は、いろいろな機械が動いていて危険な上、作業している人のじゃまにもなります。絶対入らないこと。



広い範囲から水が集まる太い雨水管。

(1) 校庭から道路へ流れ出る水

学校のグラウンドにたまった水が、学校の外に流れ出ているところを見たことがありませんか？

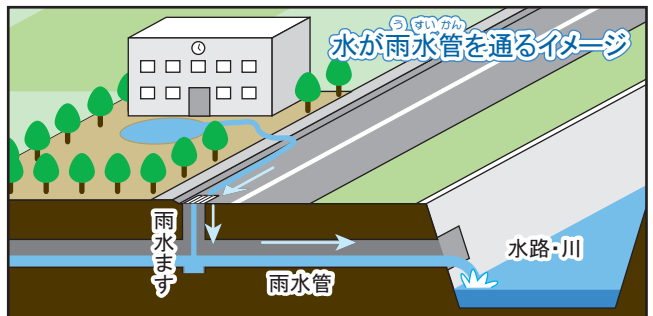
水が道路のはしを流れ、あみなどがついた穴に流れこんでいることを、たびたび目にします。

こうした穴に流れこんだ雨水は「雨水ます」に入り、落ち葉や土砂などをしずめます。

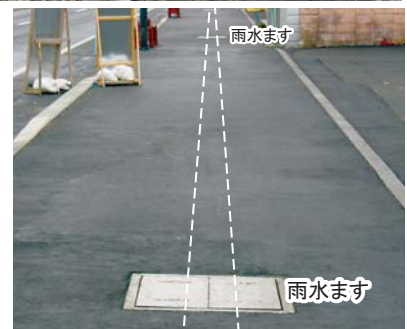
注意!!…流れを追うのに夢中になって、車にはねられたり、通りかかる人をじゃましたりしないように、気をつけましょう。



雨水ます。落ち葉などをしずめ、雨水管に水を送る。



(上) 水は地下のパイプ＝雨水管を流れていく。
(右下) 雨水管がうめられたあとの歩道。



※1 雨水ます(うすいます・雨水樹): 降った雨水を集める構造物。ふつう地下につくられ、枯葉などの異物を洗でん(ちんでん)させる役割がある他、パイプ詰まりの際に処理がしやすいように配置される。近年、川に水が集まりすぎないように、また地域の地下水や

ふだんの河川水を確認するために、水がある程度土へしみこむようにつくられた「雨水浸透樹(うすいしんとうます)」も造られている。



岸につくられた出口から、直接川に流れこむ場合(第二鈴蘭川・音更町)。

(3) 川に流れこむ

こうして地下のパイプを通ってきた雨水は、最後に川へ流れこみます。

直接パイプの口が川に出ている場合と、堤防(ていぼう)があるため、樋門(ひもん)という堤防の下をくぐる水路(すいろう)を通して、川に流れこむ場合があります。

(→ 樋門 p95、→ 取水のための樋門 p111)

注意!!...樋門(ひもん)周辺の水路は、岸が急ですべりやすく、また、地下水路は身動きが取れなくなることもあり、大変危険です。絶対入らないこと。

川で行われた大きな工事

川にしながら
ふだんの暮らし

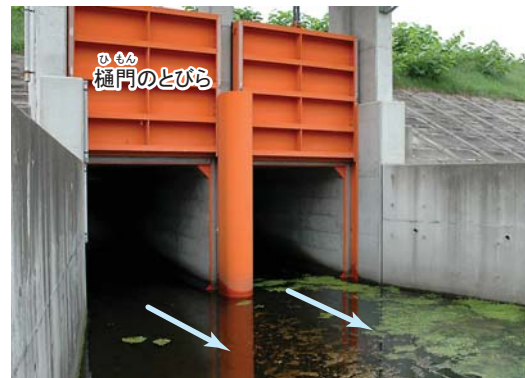
川につながる農業

川につながる漁業や工業

樋門(ひもん)を通して川へ流れこむ場合



① 雨水管の出口。



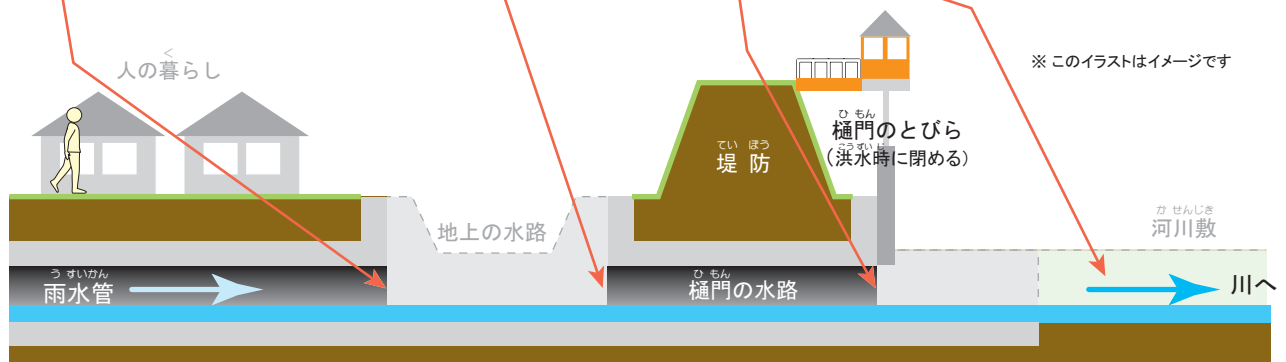
③ 樋門水路の出口。



② 堤防下(ていぼう)を通る、樋門水路(ひもんすいろう)への入り口。多くの場合、地上の水路(じょうじょうのすいろう)の水もいっしょにされる。



④ 樋門(ひもん)を通った水は、水路(すいろう)を通して川に流れこむ。



※2 樋門(ひもん)：排水(はいすい)や取水(とけすい)をするための堤防(ていぼう)をくぐる水路で、洪水(こうずい)の流入(りゅうりゅう)を防ぐとびらがついている。小さいものでコンクリート管(かん)で造られたものは樋管(ひかん)という。

付録